

■コンセプト ～『駅がつなぐ住工共生のまち』

■住工共生のまちづくり

・大阪中央環状線の西側が工業地域、東側は JR 駅の周辺など住宅地が形成。

西側は引き続き操業環境の保全、東側は土地の高度利用を図りつつ、生活利便機能を維持する方針が掲げられている。

・駅前広場の整備やモノレール駅と JR 駅との新たな歩行者動線の確保などにより、より一層の利便性向上が見込まれる。

・新田開発の歴史と水路のまち



【鴻池新田会所・鴻池水路】

現在は東西で機能が異なるこの地域だが、江戸時代は鴻池善右衛門宗利らが進めた新田開発により、広大な水田が広がる土地であった。計画地東側には鴻池新田会所と呼ばれる当時新田の管理・運営を行った施設が現存しており当時の面影を残している。

また、当時鴻池新田には多くの水路が張り巡らされ、舟が行きかっていた。現在ではほとんどが埋め立てられたが、計画地から東側住宅地にかけて一部残った水路を親水景観として利用し公園や遊歩道が整備されている。

住と工をつなぐ「水田・水路」のイメージを外観デザインに取り込む

●デザイン概要【コンセプトカラー】

- ・水のイメージとして「水色」「青」などを採用する。

■景観形成の対応報告シート

項目	アドバイザーからの意見	アドバイスへの対応
<p style="text-align: center;">附 属 施 設</p>	<p>第 2 回アドバイザー会議での意見</p>	
	<p>駅舎よりも駅前広場の方が景観中心になりそうなので、東大阪市へ駅前広場の景観形成に力を入れるよう伝えてほしい。</p>	<p>部会からのご意見は東大阪市に伝達済です。 駅舎と駅前広場が一体的に良好な景観を形成できるよう、引き続き、調整を行なっていきます。</p>
	<p>連絡通路に屋根をかけるか、かけないかによって、歩行者からの駅舎の見え方が変わるので気を付けたほうが良い。アクセントカラーの入れ方やどう効果をもたせるかなども考えてほしい。</p>	<p>連絡通路には機能上、屋根をかけますが、壁で覆ってしまうのではなく、高欄とすることで、駅舎のダイナミック感、駅前広場の様子、大阪中央環状線の直上であることを、肌で感じられるよう、視点場としての機能も配慮しました。</p>

■パース

